

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

◇県立駒林特別支援学校の誘致・開校

■事業の目的

特別支援学校とは、障がいがあり、特別に支援を要する子どもさんが通学する学校のことです。阿賀野市では、長年、市外の学校へ通学せざるを得ない状況が続いていました。

そこで、阿賀野市内に県立の特別支援学校を設置することが目的でした。

■事業の効果

障がいのある子どもさんが、身近な場所で、学習する環境を整えることができました。

■ほかり県議の実績

担当部局との数度の折衝の後、最終的に帆刈県議と知事との間で最終的な話し合いを行うことで、阿賀野市に設置することが内定し、平成20年10月、県教育委員会定例会において、県立新潟養護学校の分校として小中高等部を備えた知的障害養護学校が阿賀野市に設置されることが正式に決定されました。



新潟県立駒林特別支援学校全景

ほかりけんじ これまでの 第4号 県政活動報告

ほかりけんじ事務所

〒959-2221
阿賀野市保田737-2
TEL: 68-5441
FAX: 68-5515

全国各地で「地域創生・地域活性」が叫ばれていますが、その打開策は見えぬまま加速しているのが現状です。

私も、その任の一端を託されていることに弁明の余地はありません。しかし、一人がいくら孤軍奮闘してみても限りがあります。

阿賀野市の将来像を皆さまと共に模索し、知恵を出し合い、思いを共有して手を取り合うことが大切です。結果は、皆さまとの関係プレーができるかどうかで決まります。

今まさしく、阿賀野市の将来を決定する



平成28年 待望のあがの市民病院開院

正念場です。私も初心に立ち返り、熱意と行動と信念をもって誠心誠意努力します。

重点政策

- 1 災害に強いまちづくり
- 2 地場の商工業・観光の振興、企業誘致などによる雇用の確保
- 3 農業の振興
- 4 医療・教育・福祉の充実・確保

4 医療・教育・福祉の充実・確保

具体的実行施策

◇あがの市民病院の建設・運営支援

平成22年10月に運営を指定管理として厚生連にお願いし、平成27年10月には悲願の新病院が完成しました。

◇県立阿賀野高校支援・存続確保

平成17年県立水原高等学校と県立安田高等学校が統合し、県立阿賀野高等学校として開校しました。

◇県立駒林特別支援学校の誘致・開校

平成18年県に対して県立養護学校設置を要望し、平成23年に開校しました。



阿賀野高校授業風景

シャイでお茶目なホカリのホッコリ

ちょっとイイ話

障がいのある皆さんへ 「やさしい手」

阿賀野市には、障がいがあり、特別に支援が必要な子供さんが通学できる学校（特別支援学校）がありませんでした。

更に、新潟市が政令指定都市となったことで、新潟市の学校への入学が制限され、村上市など遠く離れた学校へ行かざるを得ませんでした。

平成18年には、保護者の皆さんから「阿賀野市に特別支援学校を設置してほしい」という要望書が市に提出されました。

この状況の中、帆刈さんは、特別支援学校が県立であることから、県への働きかけが重要と判断。

県の教育担当部署へ出向き、毎日のように働きかけを行いました。

最終的には県知事と直接話し合いを行ったことが功を奏し、平成21年4月に阿賀野市で県立特別支援学校の設置が決まったとか。

でも、帆刈さん本人に聞いても、「そんなことあったかもしれない、無かったかもしれない」とそっけない。皆さんの知らない、ちょっといい話でした。

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

◇あがの市民病院の建設・運営支援

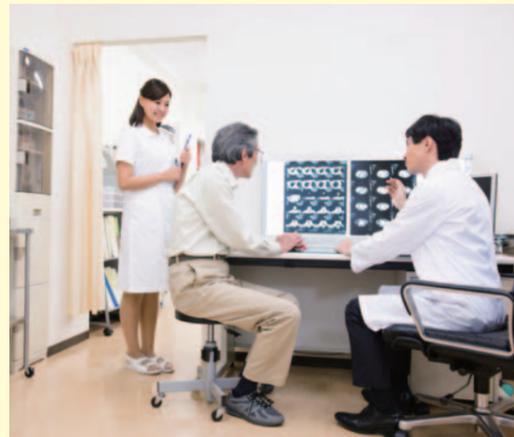
県立新発田病院との役割分担・連携確保など



今、阿賀野市における地域医療の課題は、何と云っても救急医療の問題です。二次救急医療の確保が急務となっており、医師・看護師等の医療スタッフの確保が解決の条件となっています。

以前から、県内の医師不足は深刻な状況になっていましたので、県会の代表質問でも取り上げましたが、まだ、県当局から抜本的な改善策が示されていません。

県並びに市当局から情報収集に努め、あがの市民病院と県立新発田病院との役割分担を含めての連携を図ることや、新病院建設後は、運営資金の確保などに、鋭意努力しています。



■事業の目的

安定した運営とできるだけ多くの救急患者を受け入れられる病院にすることが究極の目的です。

そのためには、医師・看護師等の医療スタッフの確保が重要です。

■事業の効果

市民の皆様の健康を増進するとともに、いつでも必要な医療が受けられることによる安心・安全で住みやすいまちを実現します。

■ほかり県議の実績

新病院建設に向けた建設資金の確保に努めるとともに、あがの市民病院と県立新発田病院の役割分担を含めた連携の確立に尽力しました。

また、阿賀野市から県立新発田病院へ救急車で患者を搬送する際の時間短縮を図るための国道460号の整備を推進しました。

病院長挨拶

あがの市民病院
病院長 藤森 勝也



当院は、地域医療の向上に努める阿賀野市の中核病院として「地域住民のいのちを守り、人と人とのふれあいを大切に、皆様から親しまれ、信頼され、安心される病院を目指す」を合言葉に運営しています。職員一人一人が患者さまのことを常に考え、医療安全と院内感染対策を充実させ、提供する診療レベルを向上させることに努めます。当院は、250ベッド、16診療科の総合病院で、急性期から回復期、慢性期、在宅医療に至るまで対応しています。加えて人間ドックも行っています。

地域は、少子化、超高齢化、人口減少がすすんでいます。さらに、新潟県は医師不足県です。このような中で、「地

域で「継続」した良質な医療を提供できるよう日々努力していく所存です。

域医療構想」では、阿賀野市は「新潟医療圏」に属します。「新潟医療圏」の新潟市内には高度急性期医療を集中させ、一方、高齢者医療、在宅医療は、地域で担うことが求められています。高齢者が、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けられるように「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」のサービスをシームレスに提供できるよう、当院は、「地域包括ケア」のハブとして、活動してまいります。

住民の皆様や市と力を合わせ、地域で「継続」した良質な医療を提供できるよう日々努力していく所存ですので、皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

◇県立阿賀野高校支援・存続確保

■事業の目的

県立阿賀野高校は、阿賀野市にとって唯一の公立高等学校であり、長い歴史の中で、多くの優れた人材を輩出し、地域の発展に大きな貢献をしてきました。

しかし、近年の少子化の影響もあって、生徒数が減少傾向にあることから、高校の将来への不安が高まっています。

この県立阿賀野高校を存続させることが目的です。



新潟県立阿賀野高等学校全景



阿賀野高校グラウンド整備完了

■ほかり県議の実績

校舎、体育館の改築、耐震化、グラウンドなどのハード面での整備を進めました。

また、阿賀野高校存続のため、市当局と連携を密にしながら、県教育委員会に様々な働きかけを行い、存続を実現しています。

2019年度～2021年度 県立高校等再編整備計画 ～生徒一人一人の夢を叶える特色ある学校づくりの推進～

再編2018年7月

新潟県教育委員会(エリア① 新発田)整備の概要

- ・2019年度、中条高校に地域産業コース(仮称)を設置し、「総合選択制の高校」とする。新発田高校理数科内にメディカルコースを設置する。
- ・2020年度、阿賀野高校に地域と連携した特色のあるコースを設置し、「総合選択制の高校」とする。
- ・2021年度、予定なし